

出雲市中小企業景況調査結果（平田商工会議所管内）

今 期（2009年7－9月）の 概 要

調査期間 平成21年10月1日～10月15日

対象企業 調査対象企業数30社 回答率30社（回答率 100%）
内訳：建設業4社、製造業7社、卸売業2社、小売業9社、サービス業8社

概 況（前期調査＝2009年4－6期）

- 全業種のDIをみると、今期業況DIが前期比で $\Delta 43.3$ （前期調査 $\Delta 62.1$ ）、前年同期比では $\Delta 51.7$ （前期調査 $\Delta 72.4$ ）とマイナス幅が縮小しており、業況はやや回復しています。ただ、来期業況見通しDIは今期比で $\Delta 37.9$ （前期調査 $\Delta 31.0$ ）とマイナス幅が大きくなっており、今後、厳しさが増し業況は悪化していくものと予測しています。
- 全業種の今期売上DIは前期比で $\Delta 62.1$ （前期調査 $\Delta 20.0$ ）とマイナス幅が大きく拡大し、前年同期比では $\Delta 69.0$ （前期調査 $\Delta 76.7$ ）とマイナス幅が縮小しています。前年同期比ではやや回復していますが、前期比では大きく売上が低下しています。来期売上見通しDIも今期比で $\Delta 60.7$ （前期調査 $\Delta 26.7$ ）と、一段と厳しくなることを予測しています。

業種別景況調査の主要DI

1、建設業

- ・今期業況DIが前期比で $\Delta 25.0$ （前期調査 $\Delta 75.0$ ）、前年同期比では $\Delta 25.0$ （前期調査 $\Delta 50.0$ ）とマイナス幅が縮小しています。また、今期売上DIは前期比で $\Delta 50.0$ （前期調査 $\Delta 75.0$ ）、前年同期比では $\Delta 25.0$ （前期調査 $\Delta 75.0$ ）とマイナス幅が縮小しています。年度当初と比べて公共事業の発注率が高まり、業況はやや明るさを取り戻しつつあります。

- ・来期業況見通し DI は今期比で $\Delta 25.0$ （前期調査 $\Delta 25.0$ ）と変わりないですが、売上見通し DI は $\Delta 75.0$ （前期調査 $\Delta 50.0$ ）とマイナス幅が拡大しており、今後は厳しい予測をしています。

2、製造業

- ・今期業況 DI が前期比で $\Delta 28.6$ （前期調査 $\Delta 57.1$ ）、前年同期比では $\Delta 42.9$ （前期調査 $\Delta 83.3$ ）とマイナス幅が大きく縮小しています。しかし、売上 DI は前期比で $\Delta 71.4$ （前期調査 $\Delta 28.6$ ）とマイナス幅が拡大し、前年同期比では $\Delta 71.4$ （前期調査 $\Delta 85.7$ ）とわずかに縮小しています。受注減少に苦慮していますが、前年同期比ではやや回復傾向にあることがうかがえます。
- ・来期業況見通し DI は今期比で $\Delta 28.6$ （前期調査 0.0）、売上 DI も今期比 $\Delta 42.9$ （ $\Delta 14.3$ ）と、今後年末にかけては悪化すると予測をしています。

3、卸売業

- ・今期業況 DI が前期比で $\Delta 50.0$ （前期調査 $\Delta 100.0$ ）とマイナス幅が縮小し、前年同期比では $\Delta 100.0$ （前期調査 $\Delta 100.0$ ）で増減なしとなっています。売上 DI は前期比で $\Delta 100.0$ （前期調査 $\Delta 50.0$ ）、前年同期比でも $\Delta 100.0$ （前期調査 $\Delta 100.0$ ）とマイナス幅は大きくなっています。
- ・来期業況見通し DI は今期比で 0.0 ですが、売上 DI は今期比で $\Delta 100.0$ （前期調査 $\Delta 100.0$ ）とマイナス幅が大きく、採算も悪化し、回復の見込みはたっていません。

4、小売業

- ・今期業況 DI が前期比で $\Delta 55.6$ （前期調査 $\Delta 55.6$ ）と変わらず、前年同期比では $\Delta 66.7$ （前期調査 $\Delta 77.8$ ）とマイナス幅が縮小しています。売上 DI は、前期比で $\Delta 37.5$ （前期調査 $\Delta 22.2$ ）とマイナス幅が拡大し、前年同期比では $\Delta 66.7$ （前期調査 $\Delta 77.8$ ）とマイナス幅が縮小しています。昨年からの景気低迷で格安店に顧客が流れ、また夏場の天候不順も大きく影響しました。
- ・来期業況見通し DI は今期比で $\Delta 66.7$ （前期調査 $\Delta 44.4$ ）、売上 DI は $\Delta 62.5$ （前期調査 $\Delta 11.1$ ）とマイナス幅が極めて拡大しています。

5、サービス業

- ・今期業況 DI が前期比で $\Delta 50.0$ （前期調査 $\Delta 62.5$ ）、前年同期比でも $\Delta 57.1$ （前期調査 $\Delta 62.5$ ）とマイナス幅が縮小しています。売上 DI は

前期比で△75.0（前期調査0.0）、前年同期比では△85.7（前期調査△62.5）とマイナス幅が拡大しています。

- ・ 来期業況見通し DI は今期比で△28.6（前期調査△25.0）、売上 DI は今期比で△57.1（前期調査△25.0）とマイナス幅が拡大しています。年末の需要期を迎えますが、消費者の節約志向は強まっていくとして先行きを懸念しています。

設備投資動向

1、今期設備投資

全業種 設備投資を実施した事業所の割合は33.3%と前期調査より増加し、「建物」「付帯施設」への投資割合が高くなっています。

建設業 実施割合が25.0%で、「機械・備品」への投資のみとなっています。

製造業 実施割合が25.0%で、「建物」「付帯施設」の割合が高くなっています。

卸売業 実施割合が50.0%で、「付帯施設」への投資のみとなっています。

小売業 実施割合が11.1%で、「OA機器」への投資のみとなっています。

サービス業 実施割合が60.0%で、「建物」「OA機器」の割合が高くなっています。

2、来期設備投資

全業種 計画している事業所の割合は21.2%で、「機械・備品」の割合が高くなっています。

- 建設業 計画している割合が25.0%で、「機械・備品」への投資のみとなっています。
- 製造業 計画している割合が33.3%で、「機械・備品」「車両運搬具」「付帯施設」の割合が高くなっています。
- 卸売業 計画している割合が0.0%と投資計画はなしとなっています。
- 小売業 計画している割合が20.0%で、「機械・備品」「付帯施設」の割合が高くなっています。
- サービス業 計画している割合が12.5%で、「建物」への投資のみとなっています。

経営上の問題点

- 全業種 第1位は「需要の停滞、受注減少」が圧倒的に高く67.9%と7割近くの割合となっています。続いて第2位は「単価の低下・上昇難」となっています。
- 建設業 第1位が「需要停滞、受注減少」で、75.0%となっています。
- 製造業 第1位が「需要停滞、受注減少」で、66.7%となっています。
- 卸売業 第1位が「需要停滞、受注減少」で、100.0%となっています。
- 小売業 第1位が「需要停滞、受注減少」で、55.6%となっています。

サービス業 第1位が「需要停滞、受注減少」で、71.4%となっています。

注：DI（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から、「減少」・「悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

詳細は業種別景況を参照してください。